

「女教員」と「母性」

齋藤慶子 著

近代日本における〈職業と家庭の両立〉問題

「女教員」たちは、男性教員と同等に働いているという誇りと「母性」という女性教員の特質を強調することの矛盾をかかえていた。現在の「育児時短」につながる「部分勤務制」の提案は、ほんとうに「両立」を可能にして女性教員の生活を豊かにしたのか。そして、むしろ地位がさらに低下するのではないかと恐れる現場の女性教員の思い、そのせめぎ合いを全国大会や地域の女性教員会の記録などから丁寧に読み解いた著。

A5判・上製・約300頁

定価：4,000円＋税

ISBN978-4-905421-68-9

仕事か家庭か——
戦前期、「職業婦人」を代表する
小学校女性教員も
〈職業と家庭の両立〉問題に
直面していた。

の
ば
推
薦
こ
と

小山静子

こやま・しずこ
京都大学教授

戦前日本における小学校女性教員と「母性」との問題を論じた本書は、女性、とりわけ既婚女性が働くということの意味を深く考えさせてくれる本である。

女性教員は、教職に就いているという点において、「男は仕事、女は家庭」という近代的な性別役割分業観に抵触する存在である。しかしながら他方で、女性教員は男性教員と同様にしかるべき専門教育を受け、教壇に立ちながら、地位や待遇面では男性よりも冷遇され、なおかつ子ども相手の仕事であるがゆえに、女性らしさや「母性」を十二分に発揮できる存在ともとらえられている。つまり、教員として働くという点においては女性役割から逸脱しながら、働き方や仕事への意味づけにおいては女性性を体現しているのが、女性教員という存在なのである。

このような複雑な位置にいる女性教員たちは、みずからの立場について何を考え、どのように行動したのか。このことを「母性」というキーワードを用いながらつぶさに検証したのが本書である。本書を通してわたしたちはさまざまな知見を得ることになるが、その結果、戦前日本の小学校女性教員が抱えていた課題や困難さが、現代の働く女性たちがおかれている状況にもつながっていることに気づかされるだろう。

2014年
6月の
新刊

六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-42

電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <http://rikkapress.wordpress.com/>

注文カード

帖合・貴店名

注文数

冊

発行 六花出版

齋藤慶子 著

「女教員」と「母性」

——近代日本における〈職業と家庭の両立〉問題

定価：四、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-905421-68-9

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。



1905（明治38）年松本尋常高等小学校の職員集合写真



1918（大正7）年松本尋常高等小学校遠足の写真

目次

「女教員」と「母性」

序章

- 第一節 研究の目的と意義
- 第二節 本研究の視点
- 第三節 義務教育費国庫負担削減問題
- 第四節 先行研究の検討
- 第五節 構成・方法

第一章 「有夫女教員問題」の台頭

——第一回全国小学校女教員会議以前の言説を中心に

- 第一節 「排除」から「配慮」へ
- 第二節 既婚女性教員の「存在価値」——一九一〇年代半ばの言説と調査から

第二章 全国小学校女教員大会における議論

——「部分勤務制」可決までを中心に

- 第一節 第一回全国小学校女教員会議における〈職業と家庭の両立〉問題に関する議論
- 第二節 国民教育奨励会主催全国小学校女教員大会での議論
 - 協議題「有夫女教員が主婦としての任務を全うすべき適切な方法如何」を中心に
- 第三節 「部分勤務制」可決までの議論
 - 第六回及び第七回全国小学校女教員大会を中心に

第三章 地域小学校女性教員会での〈職業と家庭の両立〉問題

- 第一節 各地域小学校女性教員会における〈職業と家庭の両立〉問題
- 第二節 京都市における小学校女性教員の産休・勤務能率問題
- 第三節 長野県下伊那郡における小学校女性教員の〈職業と家庭の両立〉問題
- 第四節 群馬県における小学校女性教員の〈職業と家庭の両立〉問題

結章

著者紹介

齋藤慶子

- 一九七四年 東京都に生まれる
- 一九九九年 筑波大学第一学群人文学類卒業
- 二〇〇二年 筑波大学大学院教育研究科修了
- 二〇一二年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了
- 現在 川村学園女子大学教育学部准教授